



特別コラム

失敗しない旅のお供の車いす選び

快適な車いす選びのポイントは、座り心地がいいか、乗り移りがしやすいか、移動が楽にできるかです。

「旅」では、日常生活よりも乗り移る回数、乗っている時間が増えます。

旅の行程、目的に応じて、どの機能があれば便利か、なくてもいいかを考えましょう。

(機能が増えると、一般的には重くなり、価格も上がります)

※多機能車いすで説明しています。必要な機能のついた車いすをお選びください。

🧳 背はり調節

背シートをめくると背張り調節ができるタイプもあります。円背や、体格がふくよかな方は体に合わせて調節できるので長時間座っている場合は楽になります。

🧳 座シート

長時間座る場合は、専用の車いす用クッションをこの上に敷くことをおすすめします。厚さ、材質など種々あります。

介護保険レンタル対応商品です。

※軽度者に対する福祉用具貸与対象外

🧳 フットレッグサポート

取り外しができると、乗り移る際に、座席に近づけるので便利。

長さは、膝から下の長さに合わせますが、地面から5cmは上でない、段差、坂道でひっかかる場合があるのでご注意ください。

🧳 重さ

軽いと持ち運びが楽です。

ただし、乗る人の体格がよい(体重が重い)場合は、軽いと不安定になりがちです。お身体と用途に合わせてお選びください。

🧳 あると便利

■車いすのポケットにレインコート

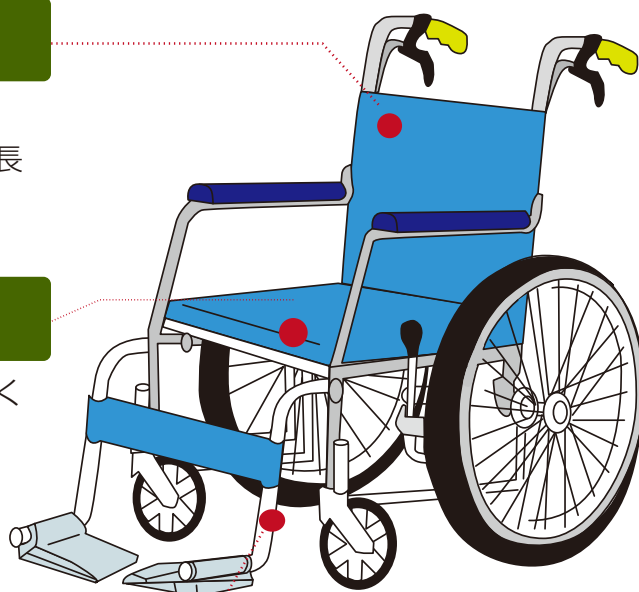
100円程のポンチョタイプでもOK。

■膝掛のすり落ち防止用の洗濯バサミ

紐の両端に洗濯バサミを1個ずつ結んだものを、2組つくる片方を上着や背シート、ひじかけに留めて、もう片方で膝掛を留める。

■携帯用の空気入れ

手頃な値段でスプレー式のものもあります。



シート幅、奥行き、座面高さは、体格に合わせて選びます。

車いすは介護保険の福祉用具貸与(レンタル)対象の商品です。
ただし、軽度者(要支援1・2、要介護1)に対しては、福祉用具貸与対象外となっています。
軽度者でも、状態によっては対象となる場合がありますので、ケアマネジャーにご確認ください。

介助者用ブレーキ

必ずついているものを選びましょう。

グリップ

押す時間、距離が長い場合は介助者の身長に合わせて高さを調節します。(だいたいおへその高さぐらい) 低すぎると、腰が痛くなり、高すぎると、力が入らないので、上り坂などがこたえます。

ひじかけ

ひじかけの高さは姿勢の決め手!!
高すぎると肩が凝ります。低すぎると姿勢が傾きます。
調節ができるタイプなら、状況に合わせて変えます。食事テーブルの高さより下げると車いすが接近できて食べやすくなります。
乗り移る時には手を伸ばして支えやすい高さにします。
跳ね上げ式だと、横からの乗り移り動作がしやすくなります。

ハンドリム

この輪っかに手をかけて回すことで自分で動かせます。
服の袖が汚れる場合があります。また、膝掛の巻き込みなどにもご注意ください。

※介助用の車いすには、ありません。

車輪

- 自走用タイプは 22 インチ前後
- 介助用タイプは 16 インチ前後

タイヤが大きいほうが、乗り心地は安定します。
先行の道路状況があまり良くない場合や、乗っている時間が長い場合は、ご自分で漕がなくても自走用のほうがいいかもしれません。一方、介助用の方がたたんだ時はよりコンパクトです。

【執筆者】坂部智子 (宅配ショップ ともべえ)

自身もかつて病気で寝たきり生活を経験し、今は母親を介護中。杖、シルバーカー、紙おむつ等の専門店「宅配ショップ ともべえ」を運営。高齢者宅を訪ね、住環境や行動を把握して、「日常生活の不便」を確認。福祉用具の選定、使用説明、アフターフォローなど、きめ細かいサポートを行う。「必要な人に必要なモノを！」をモットーとして、自転車、移動販売車で長田、須磨をメインに、神戸の街を走り回っている。

